富士河口湖町立 教育センターだより



平成 26年2月14日 文責 高尾久美子

富士山学習

2月1日(土)第16回富士山学習発表会が静岡県富士宮市文化ホールで行われました。富士宮市にある全ての小・中学校35校の発表でした。この日は、4つの小学校と2つの中学校の発表を聞くことができました。共通して言える事は、発表の仕方も、質疑応答も大変上手だったことです。声の出し方、間の取

加富士富加





り方、誰もが素晴らしく、伝えたいことがしっかりと伝わってきました。そして、何より自分の住んでいる地域に世界遺産である富士山があることに誇りをもっているということでした。また、小学校3年生から中学校3年生まで系統を立てて学習し『学びたい・伝えたい・残したい』という気持ちがどの学校の発表でも伝わってきました。



中学生の発表の中で「地域の文化を未来に繋げていくために、地域の祭り行事に積極的に参加したい。 参加することが大切。」と言った言葉が印象的でした。地域を学び守ることが富士山を守ることなので す。16年の積み重ねの素晴らしさを学ぶことができました。

āluža nālohu

富士河口湖町でも富士山学習に取り組んでいます。2月3日(月)教育センター特別研究員でもある小立小学校の小山博史先生が富士山学習公開授業を行いました。「信仰の対象富士山」をテーマに6年生の授業で実施しました。

冒頭に『富士山参詣曼荼羅図』を用いて、現在では見られなくなった信仰の姿を子どもたちに気づかせ興味を引き出していました。また、ICTをうまく利用し、富士山の信仰という難しい内容を子どもたちに大変分かりやすく提示していました。豊富な資料と工夫されたテキストは、子どもたちだけでなく参観された方々にも大変勉強になったと思います。



「素晴らしい授業だった。」「自分たちの意識改革ができた。いい資料をいただいた。」と先生方からたくさんの感想をいただきました。子どもたちの感想に「今日の授業では、富士山の歴史、すごさ、人々の心の中での偉大さが伝わった。これから富士山を見て前向きに歩いていきたい。」「これから富士山を大切に、もっときれいにしていきたい。日本の象徴として世界の人々に知ってもらいたい。」とありました。

センターでは、富士山学習研究会でまとめた学年ごとのカリキュラムをもとに、授業ができるように これからも手助けしたいと思っています。